



人間の生きる原点、
「守る」という思い。



刀が守る
力になる



「お守り刀」という小さな刀。

武器としての時代を終えた日本刀は、鉄の美術品という見方がありますが、私には、人間の生きる原点ともいえる「守」という思い、願いを具現化する象徴のように思えます。

「お守り刀」とは、護身用の刀という意味ではありません。「お守り刀」には、あなたやあなたの愛するご家族を守ることの祈りが込められています。

沖縄の漆文化を取り入れた、 琉球刀子

とうす

正倉院に収蔵されている装身具・文具としての刀子は、柄や鞘の部分に象牙を使ったものがあります。この部分に、日本刀文化とも深い関わりがあり、沖縄工芸のひとつである漆を使いたいと考え、独自につくったものが、琉球刀子です。柄は木地に漆変わり塗りを施し、鞘は乾漆の技法でつくって漆変わり塗りを施しています。金具には銀を用いました。お守り刀として、愛刀家のコレクションとして、所蔵していただければと願っています。



日本刀に圧倒され、 日本刀に包まれた。

私が日本刀に出会った時のことを一言で表すと「圧倒された」という思いがあります。刀鍛冶に弟子入りする者の大半は、日本刀を自分の手で作ってみたいと志すものですが、私はというと、私を圧倒した日本刀のように強くありたい気持ちが動機になりました。

1974年。22歳の時でした。

私の両親は沖縄出身ですが、戦争で宮崎に疎開したため、私は小学3年生までを宮崎で過ごしています。高校を卒業した70年代は、社会に関心をもち積極的に活動する若者が多くいました。沖縄はベトナム戦争の前線基地という異常な状況の中で、全軍労は基地撤去解雇反対を叫んでいました。矛盾だらけの沖縄を傍観視する自分がいました。

日本刀と出会ったのは、そんな時分です。長野の刀匠・宮入清平師（故）に入門しました。

弟子入りして数年目のこと。仲間の一人に言われた言葉があります。「沖縄の人は復帰、復帰と言うけれど、君が着ているのは米軍の払い下げじゃないか」その一言で、私は沖縄を理解することとなりました。矛盾の生活をさせられる沖縄の人々に対して、愛しい思いが芽生えたのです。

31歳。独立が許される頃になると、「沖縄には日本刀の文化がないから、帰ると10年の修行が無駄になるのではないか」とも言われましたが、沖縄が好きになっていた私は、沖縄の人が日本刀に触れる機会をつくり、世界の文化としての日本刀を知ってもらいたい思いで、帰沖し作刀をはじめました。

日本刀の地鉄である玉鋼にこだわるものづくりを心がけていくこと。また、日本刀文化とも深い関わりのある漆工芸が沖縄では盛んであり、漆の加飾にも思いをもって作刀を続けています。

圧倒された

弟子入り2カ月目頃に国宝指定の日本刀を手にする機会に恵まれた時には、むしろ「優しく包み込まれた」感覚に。ずっと心が落ち着きました。

矛盾

沖縄で暮らす限り、矛盾から離れることはできません。しかし、人間が生きていく意味を考えられる一つの場所かもしれないと思います。

玉鋼（たまはがね）

砂鉄を原料に、たたら製鉄（和鉄・和銃を製造する方法で間接製鋼法の一つ）で造られる和鋼。

日本刀文化に触れる意味

日本刀に触れるということは、文化や人間の歴史に触れることです。温故知新という言葉は、歴史あるものに触れる暮らしが、生きる意味を模索する起点となることを語っています。人生のスタートをきる場である家庭に、歴史ある日本刀文化をもちこむことの意味を私は思います。どうぞご縁ある方々の家庭に琉球刀子が置かれますように。未来を開いていく一助としていただければ幸いです。



玉鋼鍛造切り出し小刀

刃鉄に日本刀の地鉄である玉鋼を使い、古鉄に鍛接した兼工房オリジナルの作品です。



兼工房 切り出し小刀

ヤスキ鋼の青という刃物用に開発された刃鉄を使用した「兼工房 切り出し小刀」。漆で加飾（変り塗り）を施した作品です。



かりゆし文鎮・かりゆし書鎮

文鎮は三味線の棹に使う硬木で、書鎮は厚紙と木屑を固めたもの。中に鉛を入れて重さを確保。呂色漆を塗り重ね草花を転写したり、変り塗りを施しています。



お祝い刀子

名入れを施した琉球刀子。お祝いや贈答用に、一点一点、ご希望のお名前を入れさせていただきます。要予約ですのでご希望の方はお申し付けください。

日本刀と関わり続けて五十年（二〇二四年現在）。

日本刀を作刀する中で、後世に残すべき精神文化と認識を新たに

私なりの試みとして、日本刀文化の一分を持った刀子を作り初めました。

その刀子を「琉球刀子」と命名しました。

平成十七年（二〇〇五年）十月に初めての作品を世に出して以来二十年、

これまでに九十点余の作品を作って参りました。

琉球刀子^{とうす}百点展

日本刀鍛錬所
開所四十周年記念イベント

本年、日本刀鍛錬所開所四十周年に当たり、

その作品をウェブサイト上でご覧いただくと同時に、

新作で百点を超えたいと思います。

どうぞ、御高覧いただきますようお願い申し上げます。

二〇二四年九月開催



◎ 期日 2024年9月14日（土）～2024年12月14日（土）

◎ 場所 兼工房にて開催

◎ 内容 ウェブサイトにて展示及び新作琉球刀子の発表・お祝い刀子の展示

◎ 琉球刀子の購入方法

- ・ 工房にてご覧いただき、ご購入いただけます（最も安くご購入いただけます）
- ・ ウェブサイトでもご購入いただけます（諸経費が含まれた価格となっております）
- ・ お祝い刀子は、予約受付となります（予約金をいただきます）
- ・ ご購入やその他不明な点がございましたら、お問い合わせください

※ その他（お願い事項）

ウェブサイト上で、これまでの作品をご覧いただけるようになっております。作品の掲載漏れがある場合は、ご連絡いただけますと掲載させていただきたいと思っております。また、所持者についても個人情報に触れない程度に掲載出来ればと思っております。



兼
工房
日本刀鍛錬所